## 古里ゆかりの偉人たち

西洋医学を学んだ産科医

くすもと　いね

**楠本 イネ**（1827～1903）

（写真：大洲市立博物館所蔵）

楠本イネは、文政10（1827）年、長崎で生まれました。イネの父はドイツ人のシーボルトで、長崎に来て医学を日本人に教えていました。ところが、シーボルトは、国外への持ち出しを禁じられていた日本地図を持ち出そうとしたことで、日本から追放されてしまいます。

父と離れ離れになったイネは、10代のなかばごろ、シーボルトの弟子で宇和島藩出身の二宮敬作に育てられたと伝えられています。

イネは医者になることを志し、弘化2（1845）年から25年間、シーボルトの弟子たちや長崎に来ていた外国人医師から医学を学び、産科の最新技術を身につけました。とくに安政元（1854）年からの7年間は、二宮敬作のもとで修業しました。

イネは、父のシーボルトが再び来日することを聞き、敬作とともに卯之町（西予市）から長崎に帰り、安政6（1859）年、シーボルトと再会することができました。その後、イネはたびたび宇和島を訪れ、宇和島でイネの娘と二宮敬作のおいである三瀬周三が結婚するなど、宇和島とは深い縁がありました。

明治3（1870）年、イネは、東京で産科を開業しました。明治6（1873）年には、福沢諭吉らの推薦で宮内省御用掛になり、明治天皇の皇子御誕生に立ち会いました。イネは、日本人女性として初めて西洋医学を学んだ産科医です。

「古里ゆかりの偉人たち　愛媛人物博物館から」2011年10月13日付愛媛新聞（掲載許可番号：G20130201-01098）

× ウインドウを閉じる